

卒業制作展を通して生徒に達成感を味わわせる題材開発 ～芸術コース三年《工芸》卒業制作の指導～

千葉県立 ○○○○ 高等学校 ○○ ○○ (芸術科 工芸)

1 はじめに

本校は、2年次から芸術コース（1クラス 40名 音楽・美術・工芸・書道）があり、少人数制で芸術科目を学ぶことができる。3年生の1月に行われる卒業制作展（さわやかちば県民プラザ 県民ギャラリー）での展示発表を目標に、2年生では4時間（芸術Ⅱが2時間、芸術コースの授業が2時間）、3年生では6時間（芸術Ⅲが2時間・卒業制作が4時間）、芸術の授業に取り組んでいる。平成23年度で第16回目の卒業制作展を迎え、展示発表することで、地域の人々にも作ることのすばらしさや、工芸分野の表現の可能性を提示してきた。

工芸の卒業制作で、どのような課題を設定したら生徒の隠れた能力を引き出すことができるのか、どのように指導したら全員の作品を展示発表のレベルにまで引き上げることができるのかを日々模索している。生徒には制作や発表を通して、達成感を味わうとともに、生きる自信をつけてもらいたいと考え、今回、陶芸・藍染め・ステンドグラス・螺鈿などの題材開発とその指導法を研究のテーマとした。

2 陶芸の指導について

芸術コース工芸選択者のほとんどが、2年の芸術コースの授業で初めて電動ろくろでの制作を体験する。この時点で生徒は中心をとることも困難な状況なので、かなりサポートしていく必要がある。2学期からは、卒業制作展に展示できる作品制作を目指した指導に入る。陶芸作品を確実に完成に導くために、生徒の人数を半分に分け、半分は電動ろくろ、残り半分は螺鈿などの一人でも制作が進められる課題と同時進行させる。課題の難易度により、同時に電動ろくろで制作させる人数を変えている。

(1) 高杯

器の部分と高台（ろくろで逆さにひく）の部分を実際に作り、削った後にドベで接着する。初心者でも器部分と高台部分の形を工夫することで、様々なバリエーションの形が展開できる。器も高台もかめ板を使って制作すれば、組み立てて大きな作品を作ることができる。注意すべき点は、器部分と高台の大きさのバランスである。器に対して高台の接着部分の直径が大きすぎたり小さすぎたりしないように注意させる（図3）。また高台は逆さにひくので、口の厚みが薄くならないように注意させる（組み立てたとき、全体の重さがかかってくる）。



図1 器部分の底は曲面に削る



図2 高台に穴を開ける



図3



図4 器と高台をドベで接着する



図5 平成21年度卒業生作品

(2) 変形深鉢

器をひいた後、1時間程おいて表面のべたつきがなくなってから、口の部分を外側に引っ張ったり内側に押し込んだりして変形させる(図6)。ろくろを使った成形でも、同心円の形にこだわらない自由な形を考えることができる。簡単な技法なのに変化のある作品ができる。



図6



図7 成23年度卒業生作品



《生徒の感想》

- ・ 他の陶芸の課題より簡単でした。浮き彫りが楽しかった。
- ・ 自分の中ではベストな作品。スムーズに作れた。

(3) くり抜きの香合

くり抜きの香合は茶道具の香合の写真などを参考に、生徒の自由な発想をデザインに取り入れやすい。粘土の塊を蓋と器部分に切り分け、中をくり抜いて空洞にする。蓋と器のかみ合わせの凹凸がずれないように注意して削る。電動ろくろを使わないので、全員一度に制作を進めることができる。厚みのある箇所もできるので、早い時期に成形し乾燥に十分な期間をとる。蓋と入れ物を合わせた状態で乾燥させる。



図8 平成21年度卒業生作品



図9 かみ合わせ(左が蓋)

《生徒の感想》

- ・ 蓋と入れ物をぴったりと合わせるのが難しかった。
- ・ 土のかたまりから形を作るのがすごく難しかった。立体的にするのは大変だったけど、削る作業は楽しかった。

(4) 花器

かめ板を使用し、筒状に成形した後胴を膨らませたり、口をすぼめたりして壺型にする。最初に粘土の側面を筒型に引き上げることが、生徒にとってはかなり難しい。生徒の失敗しやすい点は、筒型に粘土を引き上げるときに手の移動が早過ぎて形が歪んでしまうことと、下の方の粘土の壁を薄くしすぎてしまい、成形しているうちに重さで潰れてしまうことである。



図 10 筒型に立ち上げる



図 11 口をすぼめる



図 12 柄ゴテで胴を膨らます



図 13 平成22年度卒業生作品



図 14 平成23年度卒業生作品

《生徒の感想》

- ・ 他の陶芸作品でもそうだけど、中心を取るのが難しかった。もう少し白い釉薬をかけておけばよかった。
- ・ 筒の形にするのが大変だった。
- ・ 陶芸の作品の中で一番うまくできた。絵付けが楽しかった。

(5) 風船挽きの香炉

最初に壺の形を作り、そのまま慎重に口の穴を小さくすぼめていき最終的に穴を完全に塞いでしまう。口の部分を塞いで空気を閉じこめてしまえば、膨らみや歪みなどを修正することができる。注意すべき点は、生徒は口を塞ぐことに力を集中させすぎる傾向があり、上の中心部分の粘土が凹んできてしまうことである。それを防ぐために、胴の下の方に手で圧を加え、空気を上に押し上げて中心が凹まないようにする。口周辺の厚みに注意しながら、慎重に塞いでいく。時間はかかるが完全に空気を閉じこめた状態になったとき、大きな達成感を味わうことができる。蓋の部分のくり抜きは繊細な作業になる。乾燥しすぎないようにし、薄いので作業中割らないように注意させる。



図 15 口をすぼめる



図 16 慎重に穴を塞いでいく



図 17 穴が完全に塞がった。



図 18 つまみを接着し斜めに
切込みを入れ蓋を切り離す



図 19 カッターでくり抜く



図 20 平成 23 年度卒業生作品

《生徒の感想》

- ・ 風船挽きは 2 回失敗して、しかも蓋を割ってしまうし・・・、難しかった。でもそれだけ思い出があります。
- ・ 蓋がきれいにできた。つまみの部分のバラがとてもよい感じにできた。
- ・ これは自分の中では一番できが良かったと思った。形がとても気に入っています。
- ・ この作品は制作中にいろいろ破損した。でも下手なりに楽しんでできた。

(6) 俵壺

風船挽きで俵型に成形した胴の部分をして口の部分に穴を開け、口と高台は別々に作ってドベで接着する。風船挽きの応用。口と高台も変形させたりして同心円の壺とは全く違った趣の壺になる。俵型の胴に浮き彫りなどで装飾すると面白い。風船挽きの香炉よりも簡単に思えるが、俵の底の部分の削るとき厚みが分かりにくいので注意する。



図 21 風船挽き（上下の丸さが
同じになるようにする）



図 22 口と高台を別に挽く
（胴に合わせて変形させる）



図 23 胴の横に穴を開ける
（口と高台も削る）

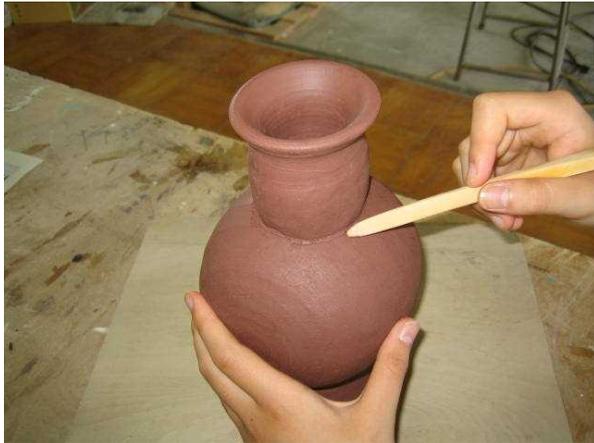


図 24 胴と口・高台をドベで接着する



図 25 平成 2 2 年度卒業生作品

(7) 飾り皿

展示作品全体のバランスで、面積の広い作品を飾りたいと思いこの課題を設定した。絵付けが好きな生徒は思いきり絵が描けるし、絵付けをしなくても釉薬の重ねがけで工夫できる。生徒は、高台の直径に対して皿を広げすぎてしまい、その結果、粘土の重さで形が崩れて失敗してしまうことが多い。はじめの段階で高台部分の直径を大きくしておいてから、皿の部分を広げていく。底削りは、厚みを確かめながら時間をかけて削る。底削りが不十分だと皿の中央が割れてしまう。削りと乾燥に十分時間をとるためにも、時間的な余裕を持って制作する必要がある。



図 26 高台部分を広めに作っておいてから、皿の部分を広げる

図 27 時間をかけて底を削る

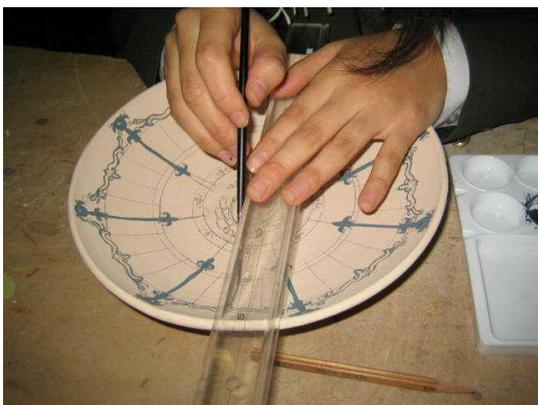


図 28 呉須による絵付け



図 29 平成 2 3 年度卒業生作品

《生徒の感想》

- ・ 粘土を横に広げるのがこんなに力がいるとは思わなかった
- ・ 底を削るのが大変。削っても削ってもなかなか薄くならない。

(8) ドーナツ挽きのオブジェ

生徒に初めてドーナツ挽きの作品を見せたとき、「どうやって作るの？不思議。」「かわいい！私もドーナツの形に作ってみたい。」と、とても反応が良かった。ドーナツ挽きは、一対一で指導すれば何とか成功する。粘土を内側と外側に分けて両方から立ち上げ（図 32）、内側は湯飲みをつくる要領、外側は大きめのお椀をつくる要領で挽く。内側の粘土の壁は外側に倒して広げ、外側の粘土の壁は内側にすぼめていき（図 34・35）、内側と外側の粘土の縁を慎重に合わせつつなぎ目をふさぐ。内側と外側の粘土の縁を、つまんで合わせるようにして接合する（図 36）。このとき片方の手で、外側の粘土の下部を押し上げるように支えるとうまく接合できる。ひっくり返して裏側もドーナツ状に削った後に（図 38）、ドーナツの表面全体にくり抜きや浮き彫りの装飾をする（図 40）。生徒は、ドーナツ挽きは成形も削りも大変だが、すごく楽しいと言う。生徒にとっては今までで一番の大作で、達成感も大きかった。



図 30 鏡餅のような形にする



図 31 中心に穴を開ける



図 32



図 33



図 34



図 35



図 36



図 37



図 38



図 39 ドーナツ挽きの完成



図 40



図 41 平成 24 年度作品

《生徒の感想》

- ・ この作品を作るのは、最初から最後まで本当に楽しかった。
- ・ ろくろでドーナツ状に作るのは結構大変だったけど、くつつくところでは感動した！
- ・ 中に空気を入れて包み込むのは難しいけど楽しい。
- ・ 削るのと彫るのは楽しく、上手にできた。完成したらきっときれいだと思う。

○題材の評価規準

	関心・意欲・態度	芸術的な感受や表現の工夫	創造的な表現の工夫	鑑賞の能力
題材の評価規準	陶芸のよさや美しさに関心をもち、主体的・意欲的に制作し、その喜びを味わおうとする。	陶芸のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせて表現を工夫することができる。	創造的な表現をするために、ろくろ制作の基礎的な技能や浮き彫りの技法を効果的に表現する方法を身につけている。	陶芸の特徴を理解し、陶芸のよさや美しさを味わうことができる。
学習活動における具体の評価規準	①陶芸のよさや美しさに関心をもち、意欲的に表現している。 ②陶土の練り、土おこしなど、制作のための準備に積極的に取り組んでいる。 ③失敗しても、何度でもチャレンジしようという意欲がみられる。	①ドーナツの形状を生かし、彫刻的な表現を工夫している。 ②ドーナツの形状全体を使い、自己のテーマや世界観を工夫して表現できる。	①ドーナツの形状全体に、効果的に浮き彫りを配置することができる。 ②浮き彫りの凹凸が、デザインに適切な立体感を与えている。 ③くり抜きの穴をデザインとして効果的に利用している。 ④各自の作品の特徴を生かして、効果的な釉薬の選択や仕上げができる。	①自他の作品から表現の工夫や美しさを感じ取り鑑賞することができる。

3 ステンドグラスの指導について

ステンドグラスは材料のガラスも高価であるし、ルーターで曲線を削る作業にも手間と時間がかかる。ガラスを経済的に使用し、直線だけのデザインで立体作品を作ることはできないかと考えた課題である。面のパーツを1枚ずつ仕上げていき、最後に全ての面を組み立てて立体にする。各パーツの寸法が狂うと組み立てたとき歪んだ形になってしまうので、最初に木枠で正確な型を作り、その型の中に削ったガラスをはめていく。銅のテープを貼った状態で、木枠の中にぴったりと収まる状態にする。木枠はそのままハンダ付けの作業にも使う。

(1) 六角形の飾り皿

六角形の底面と、六枚の台形の側面を組み立てる。飾ったときに全ての面が同時に見えるので、デザインに広がりを感じる効果がある。底面の六角形の大きさと側面の台形の形はこちらで指定し、その枠の中で生徒が自由に幾何学的な分割を考えてデザインしていく。使うガラスの色は、ある程度制限した方が統一感のある出来上がりになる。

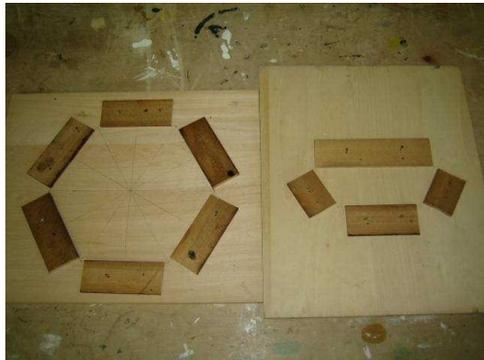


図 42 六角皿の木枠 右は側面用



図 43 平成21年度卒業生作品

(2) ピラミッドのオブジェ

生徒が好みの色のガラスを使えるよう、いろいろな方向から見られる作品にしようと考えた課題である。正確に同じ形に作った二等辺三角形を四枚組み立て、ピラミッドを作る。六角皿と違い、四つの面それぞれのデザインやガラスの色を変えることができる。ただし、四つの面に統一感を持たせるために、二等辺三角形の外枠の規格だけは指定した。



図 45 直角になるよう注意して接合



図 46 水平にしてハンダを流す

図 44 ピラミッドの木枠

スタンドガラスの立体制作は完成までかなりの時間を要し、根気のいる作業が長期間続く。従って、完成したときに生徒の感じる達成感のはかりしれないものがあり、最後までやり遂げたという自信もつく。生徒は立体の形を一から考えることは難しいが、こちらで規格を提示すればスムーズに制作に入ることができるし、確実に完成に導くことができる。規格の中でガラスの色や直線による分割のデザインを工夫させるが、単純な分割でも色の組み合わせ次第できれいにできあがる。逆に、分割が細かくなり過ぎないように注意させる（ハンダだらけになり、ガラスの見える面積が減ってしまう）。

《生徒の感想》

- ・ いろいろな色を組み合わせるのに苦労した。本当に大変だったけど、最終的に納得のいく作品になった。とても気に入っている。
- ・ 四面のバランスを取るのが難しかった。中に明かりを点けたらよさそう。

4 藍染めの指導について

藍染めは、麻布を使った型染めのタペストリーを4年間作り続けている。単に模様を染めることで終わらず、絵画のように画面に生徒の世界観が表現できればよいと考えこの課題を設定した。

A3二枚を縦につなげた大きさの画面にデザインを考えさせているが、この面積を埋めるためには生徒は相当アイデアを練らなければならない。色々な資料からデザインに使えそうな素材を探し、組み合わせていく。共通の題材を設定した年度もあった。「橋を必ず入れる。」とか「水の流れを必ず入れる。」などである。納得のいく画面構成になるまで、時間をかけ根気よく指導する。デザインが決まったら、あとは何処を白くして何処を藍色にするかを検討し、型紙のり抜き作業に入っていく。



図 47 型紙の切り抜き



図 48 糊置き



図 49 藍染め



図 50 糊を洗い流す



図 51 平成22年度卒業生作品



図 52 平成23年度卒業生作品

《生徒の感想》

- ・ なかなか上出来だと思います。もう少し縦長の画面に合ったデザインにすればよかった。
- ・ きれいに染まってよかった。最初にテーマを決めてから作ったので、やりやすかった。
- ・ 型紙を切り抜くのが大変だったが、見栄えよくきれいにできたと思う。

5 螺鈿の指導について

螺鈿は、電動ろくろの指導と同時進行できるものはないかと考えていたときに思い付いた課題である。小箱やお盆など、貝を貼ることが可能な木製品なら何にでも応用できる。材料の貝は0.5ミリ幅と1ミリ幅の線切貝を使う。螺鈿用ののりを木の表面に塗っておき、カッターで

細かく切った貝を楊枝の先につけ模様の輪郭に沿って貼っていく。曲線の箇所は貝を台形に切り、隙間なく貼る。(材料の貝を無駄なく使うために、線切貝のみを使用している。) 工芸漆を塗り、貝の模様が出てくるまで耐水ペーパーをかける。漆と貝の高さが同じになるまで繰り返す。削りすぎると貝がなくなってしまうので注意する。コンパウンドで磨くと、小さく切った貝がきらきらと輝いて繊細な感じに仕上がる。



図 53 平成 23 年度卒業生作品



図 54 平成 24 年度作品

《生徒の感想》

- ・ かなり苦戦しました。でもそれに見合う作品が出来たと思う。
- ・ 貝を貼るのがすごく細かい作業で大変でした。できあがると貝がきれいに光ってよかった。
- ・ すみずみまでとことんこだわって作った。大変だったけど、完成したときはすごく達成感を感じた。

6 七宝焼き (ホーロー板を使った額絵) の指導について

七宝焼きで、生徒がイメージを表現しやすい技法はないかを見つけ出した課題である。既に表面が白でホーロー引きがしてある板に、ライナー筆を使い黒のペイントカラーで輪郭線を描く。輪郭線を 800 度で 1 分間焼き付けた後、透明の七宝釉薬で色をのせていく (模様が細かいので楊枝を使用)。下地に白があるので色の濃淡も表現しやすく、また黒の輪郭がくっきり出るので細かな図案も表現できる。(ペイントカラーは焼き付ける前なら、はみ出した箇所を楊枝やカッターの先で削り落として修正することができる。)



図 55 輪郭線を描く



図 56 透明釉薬をのせて焼成



図 57 平成 23 年度卒業生作品

《生徒の感想》

- ・ なかなかよくできた。ガラスの粉をのせて焼くのが楽しかったです。今回は時間が少なかったけど、機会があればまた作りたい。
- ・ 釉薬の焼き加減や、色の組み合わせが難しかったです。

7 ガラスエッチングの指導について

ガラスを使って絵画的で繊細な表現ができないかと思い、考えた課題である。エッチングクリーム（医薬用外劇物指定）を塗ってガラスを腐食させ、すりガラス状にしてデザインを浮かせ上げる。ガラスに専用のカッティングシートを貼り、裏側にデザインを描いた紙をとめてデザインをシートに写し、すりガラス状にしたいところだけカッティングシートをカッターで切り抜いていく。カッターで切り抜けないような細かい模様はマスキングペンで塗る。



図 58 平成24年度作品「中心のあるデザイン」

《生徒の感想》

- ・ シートの切り抜きが細かくて大変だったけど、できあがったときはすごくきれいで嬉しかった。薬品を塗っただけでガラスが白くなるのが面白かった。
- ・ 1作目を割ってしまったけど、作り直してよかった。

8 卒業制作展について

卒業制作展は美術・工芸・書道の三科合同で行い、半日かけて自分たちで作品の展示を行う。卒業制作展は芸術コースで最も大切な行事であり、搬入当日は音楽の生徒も展示作業を手伝う。音楽選択の生徒は同時期に卒業演奏会を同ホールで行うことになっており、そのときは美術・工芸・書道の生徒が鑑賞と同時に応援に行く。芸術コースとして科を超えて、他教科の作品や演奏を鑑賞することでお互いを認め合い、更に刺激し合うことができる。

また、搬出は二年生の芸術コースの生徒が、作品鑑賞後に片付け作業を行うことにしている。三年生の作品を鑑賞することで、次年度は自分たちの番であるという心構えができる。

《生徒の感想》

質問 1 卒業制作展で自分の作品を展示・発表することに関してどう思いますか。

- ・ 嬉しく思えると同時にもっと積極的に取り組みればよかったと、後悔のようなものも感じますが、みんながどんな工夫をして作品を作っているかが学べるので良いと思う。
- ・ できそこないの作品が展示されるのは恥ずかしい。でも展示ケースに飾られた作品たちを見ると、なんだか自分の作品とは思えないほど輝いていました。
- ・ 恥ずかしい感じもしましたが、作品を観てもらうことはきっと相手にも自分にもプラスになることだと思いました。

質問 2 三年間、工芸を学び作品を制作してきたことで、何か得たもの・自分の自信につながったことがあったら書いてください。

- ・ 自分を表現することを学んだ。自分でも地道にやれば何かを作り上げることができるという自信がついた。ものを作る楽しさと、いい作品を作るための集中力が身に付いた。
- ・ 普通に過ごしていたら、絶対に知ることのできない世界を体験することができた。3年間工芸をやってきて、すごく楽しかった。ありがとうございます。

質問3 工芸の授業で学んだことを、今後の生活でどのように活かしていきたいですか。

- ・ 何事も我慢強く最後まであきらめずに完成させていきたい。
- ・ 自分の表現したいことをしっかり相手に伝えられるようになろうと思う。
- ・ これからも芸術を学び続け、自分も良いデザインを提供する側になろうと思う。



図 59 平成23年度 卒業制作展展示風景

9 おわりに

芸術コースの生徒が作る作品は卒業制作展で展示発表することが前提になっている。だから、期日までに確実に生徒の作品を完成させなければならない、という使命感を持ちながら日々指導を続けている。卒業制作展は、生徒にとって高校生活の集大成であるとともに、次の進路に向けての自信となってほしいと願っている。また、本校の生徒も年々変化し続けているので、卒業制作の内容も、生徒の変化とともに進化・成長していくものでありたいと考えている。今後は作ることが得意な生徒ばかりでなく、今は不得意でも工芸を通して自分の得意分野を開拓したいと考えている生徒も芸術コースで指導していきたい。

《参考文献》

- 「基礎からわかる はじめての陶芸」 G a k k e n
- 「香合」 淡交社 別冊 愛蔵版 ○「香合」 茶道具の世界 淡交社
- 「香合百選」 鑑賞シリーズ9 根津美術館
- 「陶芸 裏技マニュアル ろくろ編」 阿部出版
- 「陶芸入門 コツのコツ」 望月 集 NHK 出版
- 「暮らしの中で楽しむ ガラスエッチング」 塚田 紀子 河出書房新社
- 「はじめての型染め」 NHK おしゃれ工房
- ホームページ 美術・工芸部会実技研修会 「型染め技法による藍染め」

《材料購入先》

- 線切貝 藤井漆工芸株式会社
- ペイントカラー（七宝焼き） スタジオ サカミ
- エッチングクリーム 型用粘着シート Outside in 「ガラスエッチング通販係」